

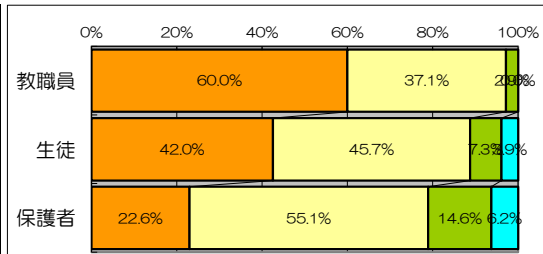
玉手中学校「学校診断アンケート」結果 平成30年度

①：当てはまる ②：どちらかといえば当てはまる ③：どちらかといえば当てはまらない
④：当てはまらない

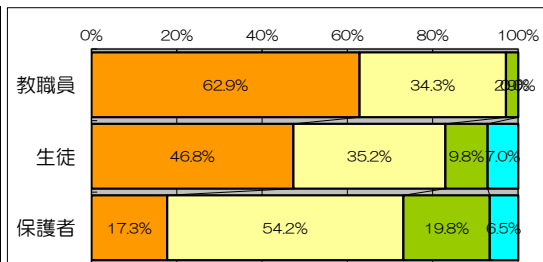
No		①(%)	②(%)	③(%)	④(%)
1	本校は、学校教育目標に沿って教育活動を展開している。				
	教職員	45.7%	54.3%	0.0%	0.0%
	生徒	43.2%	56.4%		
	保護者	26.6%	71.8%		

生徒・保護者に関しては、学校教育目標を、①知っている ②知らない で回答

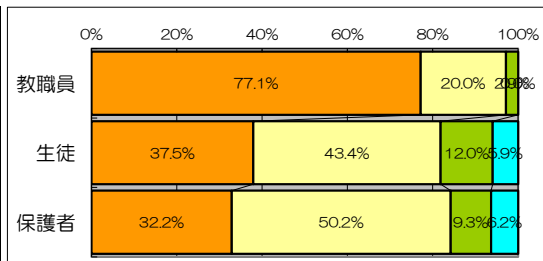
No		①(%)	②(%)	③(%)	④(%)
2	本校は、教職員が共通理解のもと、協力しあって子どもを指導している。				
	教職員	60.0%	37.1%	2.9%	0.0%
	生徒	42.0%	45.7%	7.3%	3.9%
	保護者	22.6%	55.1%	14.6%	6.2%



No		①(%)	②(%)	③(%)	④(%)
3	本校は、生徒が楽しく学校生活を送れるよう工夫している。				
	教職員	62.9%	34.3%	2.9%	0.0%
	生徒	46.8%	35.2%	9.8%	7.0%
	保護者	17.3%	54.2%	19.8%	6.5%



No		①(%)	②(%)	③(%)	④(%)
4	本校は、挨拶をはじめ、人との出会いを大切にしている。				
	教職員	77.1%	20.0%	2.9%	0.0%
	生徒	37.5%	43.4%	12.0%	5.9%
	保護者	32.2%	50.2%	9.3%	6.2%



平成31年2月 平成30年度学校診断アンケート調査考察

学校診断アンケートは、学校と生徒・保護者間にある課題について、それぞれの意見がどのように違うのかを見極め、現状を把握するとともに、今後の学校教育の改善・充実のために十分参考にさせていただきます。ご協力有り難うございました。

<項目の点検>

<改善への展望>

1. 学校教育目標を知っていますかという設問である。様々な機会に学校教育目標を生徒・保護者へ周知している。加えて本年度も昨年度に引き続き、各教室の前に掲示し一層の周知をはかった。その結果、生徒で知っていると回答した割合が昨年度より増加した。しかし、生徒で5割強、保護者で7割弱が知らないと解答している。

1. 学年別に見た場合、知っているとの回答が3年連続して増えており、3年生は56.8%と最高値を示している。また保護者の学年別回答においても3年生は他学年より10%近く多く、今後も継続して、生徒に対しては、集会や学級活動を通して学校教育目標をよりどころにした成長への願いを強調していきたい。保護者に対しては、「校長室だより」、学校HP、総会、学年通信等の方法を用いて、本校の教育活動と学校教育目標がどのようにつながっているかをさらに意識してもらえよう関連付けながらより一層の周知を図っていく。

2. 教職員が総体となって取り組んでいるかという設問である。教職員9割以上、生徒9割強、保護者9割弱が肯定的な評価であった。

2. 教育目標を実現させるため教職員が一致団結して取り組む姿勢が高い割合で感じられていると考える。教職員のポイントが少し減少している点については、教育を取り巻く環境が大きく変わる時期を迎え、教職員自身が真剣に協力体制を今まで以上にとって協力をしていかなければならないという意識の表れであり、次年度に向けて協力体制を確認して新年度体制につなげていく。

3. 生徒の約9割が肯定的な評価であり、生徒にとって居心地の良い学校であると思っている。保護者の肯定的な回答も昨年度と比較すると1割強増加している。教職員も肯定的な回答が9割以上である。

3. 生徒の肯定的な回答が増加していることに加え、保護者の肯定的な回答が10%以上増加しており、保護者の学校への理解が進んだことが見受けられる。しかし、否定的な回答の割合が保護者で昨年の2割弱から1割強に減っているが、そのポイントを減少させていくための取組が必要である。具体的には、生徒が学校生活を楽しく過ごせるよう、仲間づくりや居場所づくりの推進、教職員のきめ細やかな支援と指導体制、生徒理解に今後も継続して努める。さらに、授業改善や放課後学習、通級指導など生徒一人ひとりのニーズや目標に応じた指導を継続して行う。

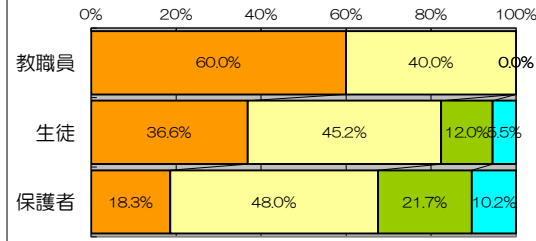
4. 教職員・生徒とも「挨拶」に対する意識は非常に高く、行事等において地域の方々から高い評価をいただいている。生徒、保護者とも9割弱が肯定的な回答をし、昨年度と比較しても微増している。

4. 今後も継続して挨拶を基本とし、学級・学年・部活・生徒会などの活動において、出会いを大切にしよう意識づけしていくことが重要である。今年度も、クラブ部員が校門でのあいさつ運動を行っている。この活動を継続して推進し、生徒の肯定的な回答を増加させていきたい。

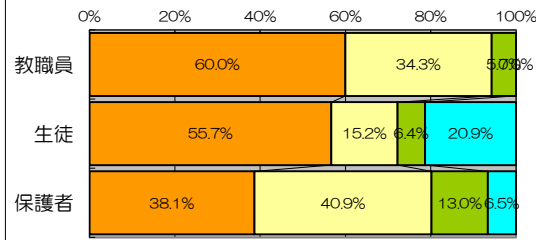
玉手中学校「学校診断アンケート」結果 平成30年度

①：当てはまる ②：どちらかといえば当てはまる ③：どちらかといえば当てはまらない
④：当てはまらない

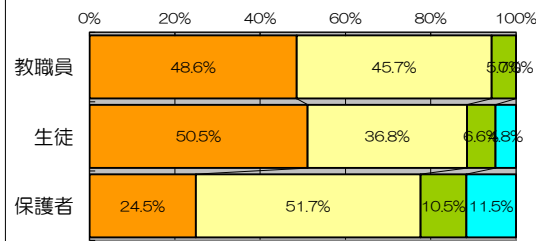
No		①(%)	②(%)	③(%)	④(%)
5	本校は、生徒を理解し、熱意をもって接している。				
	教職員	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%
	生徒	36.6%	45.2%	12.0%	5.5%
	保護者	18.3%	48.0%	21.7%	10.2%



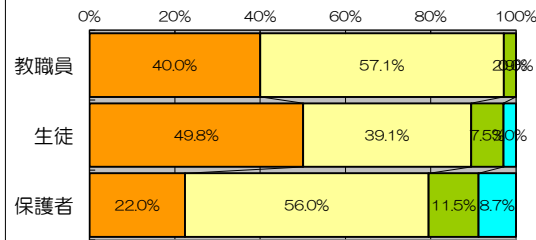
No		①(%)	②(%)	③(%)	④(%)
6	本校は、部活動が活発に行われている。				
	教職員	60.0%	34.3%	5.7%	0.0%
	生徒	55.7%	15.2%	6.4%	20.9%
	保護者	38.1%	40.9%	13.0%	6.5%



No		①(%)	②(%)	③(%)	④(%)
7	本校は、生徒会活動や学級会活動が主体的に活動できるよう、学校全体で支援している。				
	教職員	48.6%	45.7%	5.7%	0.0%
	生徒	50.5%	36.8%	6.6%	4.8%
	保護者	24.5%	51.7%	10.5%	11.5%



No		①(%)	②(%)	③(%)	④(%)
8	本校は、集団生活や社会生活に必要な規律を身につけさせている。				
	教職員	40.0%	57.1%	2.9%	0.0%
	生徒	49.8%	39.1%	7.5%	3.0%
	保護者	22.0%	56.0%	11.5%	8.7%



平成31年2月 平成30年度学校診断アンケート調査考察

学校診断アンケートは、学校と生徒・保護者間にある課題について、それぞれの意見がどのように違うのかを見極め、現状を把握するとともに、今後の学校教育の改善・充実のために十分参考にさせていただきます。ご協力有り難うございました。

<項目の点検>

<改善への展望>

5. 学校教育推進の基本となる生徒理解と熱意に関する設問である。生徒で微増して9割弱、保護者で1割強増加して8割強が肯定的な回答を行い、それにともない否定的が減少した。

5. 生徒、保護者の否定的な回答が減少し、肯定的な評価が増えている。「校長室だより」や「学級通信」、「学年通信」等とおして、学校から頻繁に情報を発信しているが、中身により一層生徒の良いところを盛り込んでいきたい。また、授業の工夫改善、生徒会や部活動の充実や学校生活全般にわたっての教職員の熱意を伝えていきたい。

6. 部活動については生徒の意識の中で授業と並んで大きな位置を占めている。積極的に参加している生徒が多く、三者とも共通してよく現れている。生徒、保護者とも肯定的回答が増加している。

6. 部活動は仲間がお互いを高め合うと共に個々の自己実現のために大きな役目を果たしている。まず教員が活動現場に顔を出し、指導理論、指導技術などの研鑽に励み指導の向上を図る。さらに、生徒たちが部活動で培った成果を日常のすべての活動に波及させられるよう指導の強化を図る。外部コーチや専門の講師等を活用しより専門的な技術指導にも取り組んでいきたい。

7. 毎年生徒会に対しては、三者とも肯定的な回答が多い項目である。本年度もさらに上昇し、9割強の生徒が成就感・達成感を持っている。生徒議会・生徒総会、アピール活動等で表現力が向上した。生徒たち自身が学校を良くしようと活発な意見交流がなされている。全教職員の熱意ある指導で活性化されている。

7. 保護者の肯定的評価が10%近く増加している。生徒による自主的・主体的な生徒会活動が定着してきていると言える。来年度も、執行部・中央委員会・専門委員会が連携し組織としてさらに動けるよう成長させていきたい。多くの学校行事でも生徒会が主体となり取り組んでいる。入学式では、専門委員会を中心に、本校独自の取り組みを実施している。次年度も継続して生徒会活動に取り組んでいきたい。

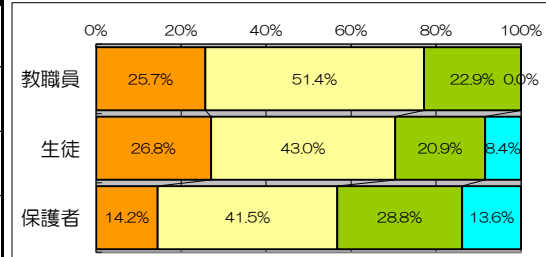
8. 道徳の授業、学校集会、学年集会等で集団生活での規範意識や規律の指導を強化してきた成果により、生徒の肯定的な回答が昨年度より増加し9割強という高い数値を得た。二者の肯定的な回答も教職員9割以上、保護者8割強と高い数値を得た。

8. 来年度も教育三領域、生徒会活動、部活動、人権教育、体育・文化行事、福祉ボランティア教育等の全教育活動で心の教育をさらに推進し、規範意識や公衆道徳(マナー)向上に向けた指導方法の工夫改善に努める。特に道徳教育を軸にして、より一層規範意識を身につけさせていきたい。日々校外外での問題行動は発生している。今後も粘り強い指導を継続していく必要がある。

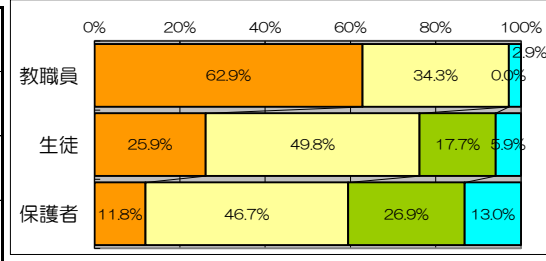
玉手中学校「学校診断アンケート」結果 平成30年度

①：当てはまる ②：どちらかといえば当てはまる ③：どちらかといえば当てはまらない ④：当てはまらない

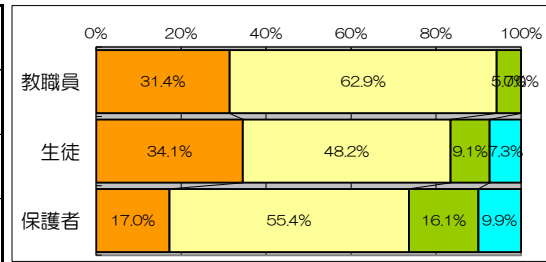
No		①(%)	②(%)	③(%)	④(%)
9	本校は、地域の実態に応じた特色ある教育活動を展開している。				
	教職員	25.7%	51.4%	22.9%	0.0%
	生徒	26.8%	43.0%	20.9%	8.4%
	保護者	14.2%	41.5%	28.8%	13.6%



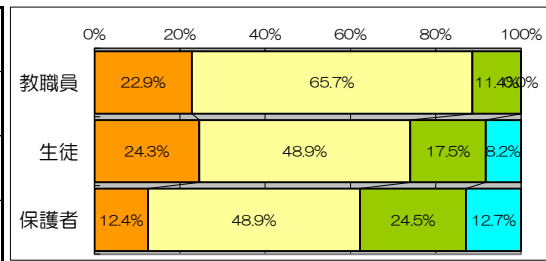
No		①(%)	②(%)	③(%)	④(%)
10	本校は、分かりやすい授業づくりに努め、研修している。				
	教職員	62.9%	34.3%	0.0%	2.9%
	生徒	25.9%	49.8%	17.7%	5.9%
	保護者	11.8%	46.7%	26.9%	13.0%



No		①(%)	②(%)	③(%)	④(%)
11	本校は、全教育活動を通して、人権意識や道徳心を育てている。				
	教職員	31.4%	62.9%	5.7%	0.0%
	生徒	34.1%	48.2%	9.1%	7.3%
	保護者	17.0%	55.4%	16.1%	9.9%



No		①(%)	②(%)	③(%)	④(%)
12	本校は、生徒に自分の良さや適正を知らせる機会を設け、適切な進路選択ができるよう指導している。				
	教職員	22.9%	65.7%	11.4%	0.0%
	生徒	24.3%	48.9%	17.5%	8.2%
	保護者	12.4%	48.9%	24.5%	12.7%



平成31年2月 平成30年度学校診断アンケート調査考察

学校診断アンケートは、学校と生徒・保護者間にある課題について、それぞれの意見がどのように違うのかを見極め、現状を把握するとともに、今後の学校教育の改善・充実のために十分参考にさせていただきます。ご協力有り難うございました。

<項目の点検>

<改善への展望>

9. 本校の「特色ある教育」は生徒たちが元気に生き生きと主体的に学校生活を送ることを最大の目標に推進している。他の項目と比較すると肯定的評価が低くなっているが、生徒の肯定的な回答が、微増、保護者においては7割以上に増加した。

9. 「特色ある教育」の中心となるのが、生徒会主体による学校行事等の企画・運営と、地域の福祉委員さん等との合同行事の企画・運営である。学校行事や福祉委員さんとの合同行事を通して地域の方々との交流は深まっている。今年度は環境美化活動にクラブ単位で多くの生徒が参加し、生徒の取り組みに対する理解が増加に結びついたと考える。今後もこの活動の充実を図るとともに、校外外に対して周知していく必要がある。

10. 授業についての設問である。肯定的評価が保護者で7割強、生徒で8割強に増加し、教職員の肯定的な回答が同様9割強であった。教職員(約9割)と保護者(約7割)との捉え方に以前差がある。教職員は努力していると考えているが、保護者は約2割強が否定的な回答である。

10. 例年よりさらに差が縮小したものの、依然、教職員と生徒・保護者との格差が大きいということを実感を受け止め、研究、研修を重ね、更に指導方法の工夫・改善に努めなければならない。授業は学校教育の中心である。研究授業や授業参観等の際のアンケート結果を今後の改善に活かし、工夫改善のポイントを明確にして取り組んでいく。幼小中一貫教育の推進もからめて、校種間の研究授業や授業参観を積極的に「わかりやすい授業づくり」に努める。

11. 本校における人権教育、道徳教育については、外部から適切な講師を招聘し部会からの提案のもと組織的に取り組んでいる。その成果もあってすべての対象者の肯定的な回答が増加し、生徒の肯定的な回答が9割弱になり、保護者8割強、教職員9割以上の回答であった。

11. 昨年度より増加したといえ、人権教育、道徳教育については、今後も重点的に取り組んでいくべきであると考え。全教職員が総体となって、よりいっそう研修、研究に取り組み、全教育活動の中で豊かな心を培っていく。普遍的な人権意識、道徳心を高めるために、教職員自身が日頃の言動をもう一度振り返り、実践を伴ったあらゆる場面で人権感覚を高め日々教育活動に努めることが不可欠であると考え。

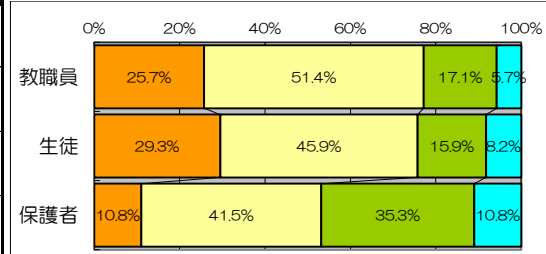
12. キャリア教育、進路指導に関しては、肯定的な回答が昨年度と比較して、三者とも増加。保護者の肯定的な回答は学年があがることに多くなっている。

12. 1年次のうちから自分自身の適正を知り、2年次には職業体験などの活動を通してキャリア教育を行っている。教師が生徒への肯定的評価を行いながら、希望のある実現可能な進路選択ができるよう、今後も工夫して指導していきたい。

玉手中学校「学校診断アンケート」結果 平成30年度

①：当てはまる ②：どちらかといえば当てはまる ③：どちらかといえば当てはまらない
④：当てはまらない

No		①(%)	②(%)	③(%)	④(%)
13	本校は、生徒の意欲や関心に基づいた総合的な学習の時間を実施している。				
	教職員	25.7%	51.4%	17.1%	5.7%
	生徒	29.3%	45.9%	15.9%	8.2%
	保護者	10.8%	41.5%	35.3%	10.8%



平成31年2月 平成30年度学校診断アンケート調査考察

学校診断アンケートは、学校と生徒・保護者間にある課題について、それぞれの意見がどのように違うのかを見極め、現状を把握するとともに、今後の学校教育の改善・充実のために十分参考にさせていただきます。ご協力有り難うございました。

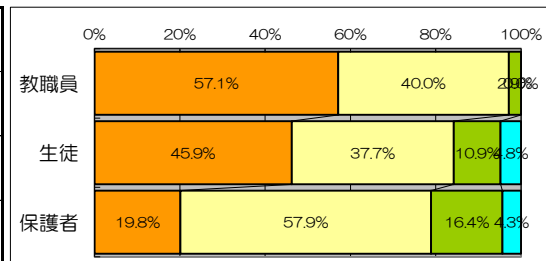
<項目の点検>

<改善への展望>

13. 総合的な学習の時間に関する設問では、生徒、教職員の肯定的な回答が昨年度と比較して増加した。また、生徒は宿泊学習・職業体験・文化祭に関わる総合的な学習についての感想も肯定的に評価している。

13. 生徒の興味・関心のある内容を、生徒が主体的に学習することが総合的な学習の時間のめあてである。生徒・保護者共に、肯定的回答が増えたということは、総合的な学習が適切に取り組まれている現状を示していると考えられる。今後はさらに、生徒の成長を伝えられる評価について研究したい。学習指導要領に示された教科の目標に従い、小学校とも連携しながら本校独自のカリキュラムを編成していくことも必要である。

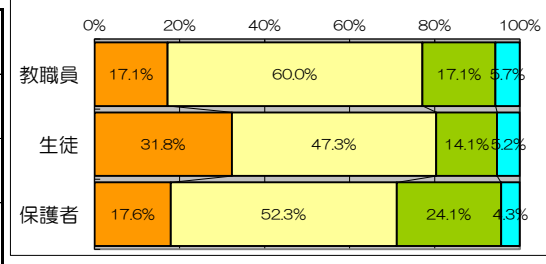
No		①(%)	②(%)	③(%)	④(%)
14	本校は、学校行事を通して、豊かな人間関係づくりを行っている。				
	教職員	57.1%	40.0%	2.9%	0.0%
	生徒	45.9%	37.7%	10.9%	4.8%
	保護者	19.8%	57.9%	16.4%	4.3%



14. 豊かな人間関係づくりに関しては、肯定的な回答が、教職員は昨年同様9割以上、生徒は昨年度より増加し9割弱、保護者は昨年同様8割強であった。

14. 本校では学校行事を通じての豊かな人間関係づくりに取り組んでいる。教職員の結果及び、生徒の肯定的な回答の増加は、組織的に行事に取り組んでいる現われたと考える。次年度は、学校行事の検討、または内容を深化させていくことで、さらなる生徒間の豊かな人間関係の構築につとめたい。

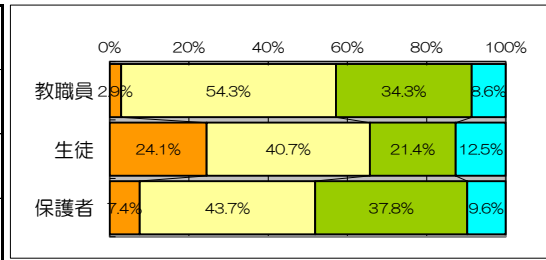
No		①(%)	②(%)	③(%)	④(%)
15	本校は、生徒の体力向上に向けた取組を行っている。				
	教職員	17.1%	60.0%	17.1%	5.7%
	生徒	31.8%	47.3%	14.1%	5.2%
	保護者	17.6%	52.3%	24.1%	4.3%



15. 体力向上の取組については、生徒・保護者とも増加しているが、教職員の肯定的な回答が減少して7割弱になった。台風による影響で体育館が使用できない状況で活動が制限されている状況なので、このような結果になったと思われる。

15. 学校教育は、知・徳・体のバランスを取りながら進めて行かなくてはならない。特に、健康面は日常生活にとって大切なことである。学習規律を確立しつつ体力向上を図る授業内容の工夫を体育科の授業研究で行いながら全校あげて生徒の体力づくりを行った結果が生徒の肯定的回答増加につながったと考える。しかしながら、今年度台風の影響による体育館損壊のため体育館を使用できない状況の中、体育館の代わりにラーニングを使用し工夫して行ってきたが、教職員においては十分に取組みができないとの判断で肯定的な評価が減少している。体育館が早く使用できるまで、今後もさらに工夫した取組を継続していきたい。

No		①(%)	②(%)	③(%)	④(%)
16	本校は、教育活動を展開する上での施設・設備が整っている。				
	教職員	2.9%	54.3%	34.3%	8.6%
	生徒	24.1%	40.7%	21.4%	12.5%
	保護者	7.4%	43.7%	37.8%	9.6%



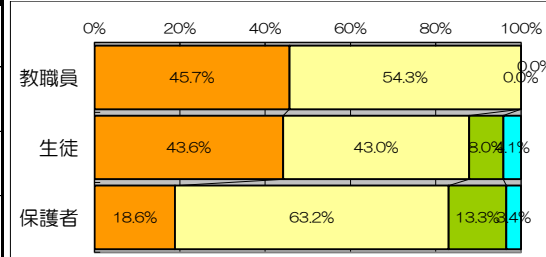
16. 学校の施設・設備について、肯定的な回答は、三者とも低く、生徒は昨年と変わらないが、保護者で5割を切り、教職員は4割と大幅に減少している。トイレの水漏れ、教室の扉・蛍光灯の故障が1年を通して多かった。台風による体育館の損傷の影響も大きい。

16. 本校は創立34年を過ぎ、校舎内のいたるところに老朽化が見取れる。随時修繕補修に取り組んではいるものの、故障箇所が多いこと、また、台風による体育館損壊による影響が肯定的回答の減少の大きな要因だと思われる。今後も、教職員、生徒や保護者のニーズを聞き取りながら、柏原市教育委員会と連携して、施設・設備の充実に取り組む。

玉手中学校「学校診断アンケート」結果 平成30年度

①：当てはまる ②：どちらかといえば当てはまる ③：どちらかといえば当てはまらない
④：当てはまらない

No		①(%)	②(%)	③(%)	④(%)
17	本校は、安全・安心な学校づくりに努めている。				
	教職員	45.7%	54.3%	0.0%	0.0%
	生徒	43.6%	43.0%	8.0%	4.1%
	保護者	18.6%	63.2%	13.3%	3.4%



平成31年2月 平成30年度学校診断アンケート調査考察

学校診断アンケートは、学校と生徒・保護者間にある課題について、それぞれの意見がどのように違うのかを見極め、現状を把握するとともに、今後の学校教育の改善・充実のために十分参考にさせていただきます。ご協力有り難うございました。

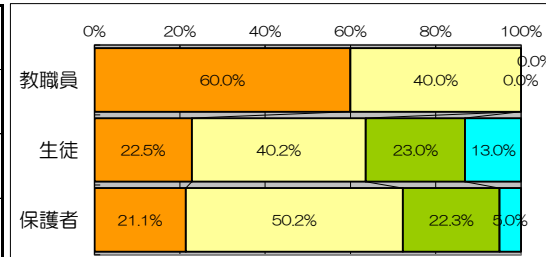
<項目の点検>

<改善への展望>

17. 安心安全な学校づくりについて、肯定的な回答は、教職員が9割以上、生徒が9割弱、保護者が8割以上と増加している。災害時の連絡についてもホームページやブログが有効活用されており、問い合わせが減少している。今年度クラブ活動中に起こった地震時にグラウンドに避難したが、落ち着いて対応できていた。

17. 「避難訓練」を実施し、いざという時に生かされる指導の充実を図っている。常時校内施設等も点検し、安全教育に対しての意識も高揚している。登下校時においても正門前等で安全指導にあたっている。これからも継続して安全な学校づくりを推進する。しかし、違反物、生徒間トラブルなど規範面で課題も見られる。さらに規範意識を高め、安心して過ごせる学校づくりに努める。地震による突然の避難に対して落ちおついて対応できており、訓練の成果であると考ええる。

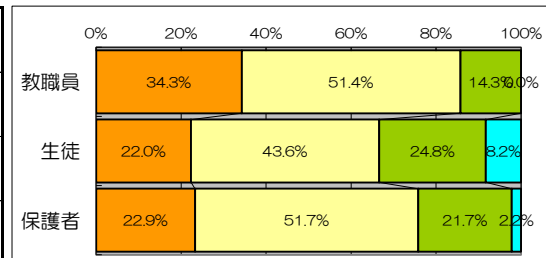
No		①(%)	②(%)	③(%)	④(%)
18	本校は、学校教育活動について、電話・通信・ホームページ等を通して家庭に知らせている。				
	教職員	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%
	生徒	22.5%	40.2%	23.0%	13.0%
	保護者	21.1%	50.2%	22.3%	5.0%



18. 学校教育活動の発信について、HPの更新や定期的な「校長室だより」の発行等、校内情報を発信している。その成果があり肯定的な回答は、生徒・保護者とも増加して7割強となった。

18. 教職員は学級通信、学年通信など、積極的に情報を発信し、HP担当者も連日更新を行った。また、「校長室だより」を定期的に発行し、学校長自ら学校経営方針や校内情報を生徒・保護者・地域に向けて発信していることが肯定的回答の増加につながったと考える。しかし、保護者の肯定的回答の減少から、生徒を通して確実に保護者の手元に届いていない可能性も考えられる。確実に保護者に届けるべく方策を検討する必要がある。

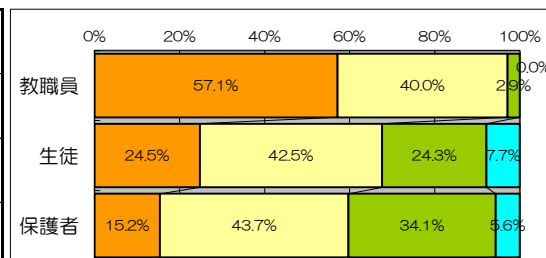
No		①(%)	②(%)	③(%)	④(%)
19	本校は、開放的で保護者が授業を参観するなどの機会をよく設けている。				
	教職員	34.3%	51.4%	14.3%	0.0%
	生徒	22.0%	43.6%	24.8%	8.2%
	保護者	22.9%	51.7%	21.7%	2.2%



19.20. 開かれた学校づくりに関するこの2項目については、生徒と保護者の肯定的な回答が、さらに増加傾向にある。否定的な回答が減少しているが割合としては高い。

19.20. 2つの項目とも、肯定的評価が過半数をこえ、高いポイントを示しているが、否定的な回答の割合が高い点については、今後も継続して、学校・保護者・地域が一体となって子どもを育てるという意識を高められるよう取り組んでいく。

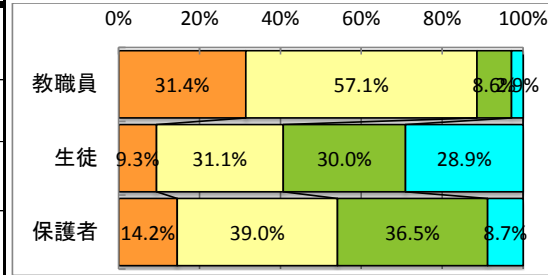
No		①(%)	②(%)	③(%)	④(%)
20	本校は、保護者や地域の人々と話をしたり活動したりする機会をよく設けている。				
	教職員	57.1%	40.0%	2.9%	0.0%
	生徒	24.5%	42.5%	24.3%	7.7%
	保護者	15.2%	43.7%	34.1%	5.6%



玉手中学校「学校診断アンケート」結果 平成30年度

①：当てはまる ②：どちらかといえば当てはまる ③：どちらかといえば当てはまらない
④：当てはまらない

No		①(%)	②(%)	③(%)	④(%)
21	本校は、小学校との連携や交流が活発に行われている。				
	教職員	31.4%	57.1%	8.6%	2.9%
	生徒	9.3%	31.1%	30.0%	28.9%
	保護者	14.2%	39.0%	36.5%	8.7%



平成31年2月 平成30年度学校診断アンケート調査考察

学校診断アンケートは、学校と生徒・保護者間にある課題について、それぞれの意見がどのように違うのかを見極め、現状を把握するとともに、今後の学校教育の改善・充実のために十分参考にさせていただきます。ご協力有り難うございました。

<項目の点検>

21. 小中連携に関するこの項目についての三者の肯定的な回答が大幅に減少している。生徒においては4割弱ととても低い結果となっている。今年度、台風の影響により、小中のクラブ体験やクリスマスコンサートが中止になった影響が大きい。

<改善への展望>

21. 小中一貫6部会等定期的に実施し、教職員レベルでの小中連携は取り組まれている。しかしながら、依然生徒の回答から児童・生徒レベルでの交流は不十分といえる。小中のクラブ体験やクリスマスコンサートが中止となり、交流の機会がなかった影響が大きい。従来行事を深化させ、児童生徒間の交流を促進させ幼小中一貫教育をより一層推進したい。